

令和6年1月24日

国土交通省 中国地方整備局長

中崎 剛 殿

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

委員長 関根 雅彦

八田原ダム定期報告書の総括について

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会は令和6年1月24日に八田原ダムに関する定期報告の審議を行い、下記11名の意見により本フォローアップ委員会としての総括をとりまとめたので提出する。

記

氏名	役職	専門分野等
井上 卓也 <small>いのうえ たくや</small>	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 准教授	河川工学
海野 徹也 <small>うみの てつや</small>	広島大学大学院 統合生命科学研究科 教授	魚類
清家 泰 <small>せいけ やすし</small>	島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 客員教授	水質
関根 雅彦 <small>せきね まさひこ</small>	山口大学大学院 創成科学研究科 教授	水質
田原 博 <small>たばら ひろし</small>	日本野鳥の会 島根県支部 支部長	鳥類
鶴崎 展巨 <small>つるさき のぶお</small>	鳥取大学 名誉教授	動物
中越 信和 <small>なかがし のぶかず</small>	広島大学 名誉教授	植物
三輪 浩 <small>みわ ひろし</small>	鳥取大学学術研究院 工学系部門 教授	河川工学
矢島 啓 <small>やじま ひろし</small>	島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 教授	水環境
山田 知子 <small>やまだ ともこ</small>	比治山大学 現代文化学部 教授	社会環境
吉田 圭介 <small>よしだ けいすけ</small>	岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域 准教授	河川工学

- 「第34回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「八田原ダム定期報告書」の審議を行った。
- 審議は、「防災操作、利水補給、堆砂、水質、生物、水源地域動態」の6項目について、平成30年度から令和4年度までの期間を主な対象として行った。

各項目に関する審議結果は以下の通りである。

1. 「防災操作」

評価期間である平成30年度から令和4年度の間ダムへの流入量が150m³/sを超える洪水が8回生じたが、適切なダム操作により所期の機能を発揮している。

今後、気候変動の影響により水害の激甚化・頻発化が懸念されるため、引き続き適切な防災操作を行うと共に、ダムの機能を最大限発揮できるようなダム運用の高度化について取り組まれない。

2. 「利水補給」

所期の機能を発揮し、受益地に貢献している。今後もダム貯水位を適切に管理・運用し、受益地への利水補給を行われたい。

3. 「堆砂」

貯水池内の堆砂は概ね計画値に沿った変動状況であり、管理上の問題は生じていない。今後も適切な方法により測量等を継続して実施し、堆砂状況を把握されたい。

また、堆砂対策の一環としてダム下流にて実施する置き土の効果については定期的な調査を活用した調査計画を立案し、その効果や影響を確認されたい。

4. 「水質」

利水上の問題は確認されていないが、アオコの発生といった富栄養化現象が発生している。このためダムの管理・運用に必要な水質や底質の調査に加えて、アオコ発生時には速やかに所定の詳細調査を実施すると共に関係機関への情報提供を実施されたい。

また、下層のDO低下や表層水温および放流水温の状況も注視されたい。

さらに、各種水質保全対策については、水質改善効果や維持管理上の課題を踏まえて効率的な運用方法等の改善に取り組まれない。

5. 「生物」

生物の生息・生育環境に大きな変化は確認されていないが、今後も調査を継続し生物の生息・生育環境の把握に努められたい。

また、特定外来種や有害な鳥類の管理、ギフチョウの保護といった環境保全対策については、その環境の維持や食草の生育場所の創出について地域の住民や関係団体と協働・連携に努められたい。

6. 「水源地域動態」

八田原ダムが果たす治水や利水の役割について、その貢献状況が地域に理解されるように「ダム管理の見える化」を促進されたい。

特に、既存の広報施設の活用や道の駅等のダム周辺施設との連携、教育関連の取り組みについて推進されたい。

また、八田原ダムを活用した地域活性化については、水源地域の社会状況を踏まえダムと地域が役割分担を行いながら、積極的に関与されたい。

以上